

預言者(Prophet)と治癒者(Healer) —キング牧師、バラク・オバマ、未完の夢—

黒崎 真*

The Prophet and the Healer: Martin Luther King, Jr., Barack Obama, and an Unfinished Dream

KUROSAKI Makoto*

要 旨

バラク・オバマという「黒人」初のアメリカ合衆国大統領の誕生を、キング牧師の夢の成就とする見方がある。本稿は、この見方とは反対に、人種差別、貧困、軍国主義の根絶を目指した晩年キングの夢は未完であり、その実現はむしろオバマ大統領が取り組むべき課題であると指摘する。しかし、オバマは大統領として、また国家の亀裂を修復する「治癒者」として「政治の論理」で行動せざるを得ず、結果的に晩年キングの夢は放置されたままとなる可能性がある。そのため、キングが体現したような、政治の外で「政治の論理」ではなく良心に基づき行動し、アメリカ建国理念と現実の矛盾を警告する「預言者」の必要性は、オバマ大統領に対しても失われていないと論じる。

* 神田外語大学英米語学科准教授。Associate Professor, Department of English, Kanda University of International Studies.

Abstract

When Barack Obama won the U. S. presidential election in 2008, the news media tended to cover it as a fulfillment of Martin Luther King, Jr.'s dream. Contrary to this view, this paper argues that King's dream, especially his later years' radical dream of eradication of "the triple evils" of racism, poverty, and militarism, remains mostly unrealized and it is rather a task left to the Obama administration to address these issues. However, we should not be so naive as to expect President Obama to fulfill King's radical dream because he needs to function as a mainstream electoral politician and a "healer" who bridges political and racial divides in the U.S. For this to happen, it is important that the prophetic moral voice from outside the political world be constantly raised in order to make the Obama administration move closer to the fulfillment of King's dream.

はじめに

2008 年 11 月 4 日にバラク・オバマがアメリカ合衆国（以下、アメリカ）大統領選挙に勝利すると、それを「キング牧師の夢の成就」とする声が世論やメディアにあふれた。¹⁾ このような論調には、確かにそれを生み出す背景があったことは否定できない。第一に、単純ではあるが、オバマとキングが「黒人」だという点がある。第二に、2008 年の大統領選挙期間中、オバマとキングの写真や似顔絵をペア印刷した T シャツやポスターが多数販売されたこともあげられる。第三に、2008 年 8 月 28 日に行われた民主党全国党大会でのオバマの大統領候補指名受諾演説である。キングの「私には夢がある」演説（以下、「夢」演説）からちょうど 45 年にあたるこの日、オバマはキン

1) たとえば、(Drennen, 2008)、(Gonzalez, 2008)、(Winnett, 2008)、(『朝日新聞』、2008 年 11 月 7 日)、(CNN, 2009) など。

グのこの演説に言及したのだった。第四に、キング暗殺からオバマ大統領誕生までが40年であることも、象徴的意味を持った。旧約聖書の「出エジプト」物語において、エジプトで奴隷状態にあったイスラエル人は、モーセに率いられエジプト脱出後、荒野を放浪した後「約束の地」に到達する。この荒野での放浪期間が40年なのである。

モーセはカナンに入る前に亡くなり、カナンへの移住はヨシュアに引き継がれるが、オバマはこの物語に重ね、キングを「モーセ世代」、自分を「ヨシュア世代」と呼んできた。「約束の地」到達の物語は、奴隷制時代から公民権運動そして現在に至るまで、黒人に解放への希望を提供してきた中心的物語である(黒崎2008)。したがって、多くの黒人がオバマ大統領誕生をこの物語に重ねて理解したとしても不思議ではない。そして第五に、2009年1月20日のオバマの大統領就任式前日が、キング牧師連邦祝日にあたっていたこともあげられよう。

しかし、オバマ大統領誕生をキングの夢の成就と単純に結びつけることは、キングの夢、両者の社会的役割と政治的立場、アメリカが直面する課題について、各々が持つ複雑な次元を見落とすことになりかねない。むしろ、オバマ大統領誕生に際し発すべき問いは、キングの夢のどの部分が成就し、どの部分が未完なのかであり、また、オバマをキングに単純に重ねることができないとすれば、両者の違いは何で、その違いはどこから来ているかなのである。本稿の目的は、こうした問いを複数の視点から考察し、キングとオバマの社会的役割と政治的立場の違いを明確にすることである。

本稿では、次のように議論を進める。まず、キングの夢の中身を検討し、晩年キングの夢が依然として未完のままであり、その今日的意義は失われていないことを確認する。次に、キングとオバマの社会的役割と政治的立場について、前者を「牧師」、「預言者」、後者を「政治家」、「治癒者」と特徴づけて考察し、両者の間には大きな違いがあることを指摘する。最後に、これ

までの議論を踏まえ、晩年キングの夢が未完のままである以上、キングが体現したような「預言者」の必要性は、大統領が誰であっても失われることはない結論づける。

1. キングにおける二つの夢

キングの夢を考える際に重要なのは、キングの夢が彼の公的生涯が進むにつれ深められていったという視点を持つことである。言いかえれば、キングの夢の深さと幅は、彼が何に取り組む必要があると認識したかという実践的側面から掘り下げる必要がある。以下、便宜上、キングの夢を公的生涯前半(1955 年 12 月～1965 年夏)と晩年(1965 年夏～1968 年 4 月 4 日)の二期に分けて検討していく。²⁾

まず、公的生涯前半のキングは、何よりも南部の人種差別問題に取り組む必要があると認識していた。なぜなら、南部は「親しんだ慣習」の下に、独立宣言に示された「全ての人間は平等」とする建国理念とは明らかに矛盾する法的人種隔離制度を維持し、黒人から政治参加の前提条件である投票権を奪っていたからである。したがって、南部公民権運動とは、主として法的平等の追求、投票権の保障など、いわば「機会の平等」を求める運動であり、公的生涯前半のキングの夢も、そのような特徴を持つものであった。

南部公民権運動はまた、概して個人の主流社会参入を目指す運動という傾向を持った。というのも、法的差別の根拠を「肌の色」に求める南部人種隔離制度を攻撃するためには、「肌の色」は関係ないというレトリックを採用する必要があったためである。キングの「夢」演説において最も頻繁に引用

2) 「便宜上」と書いた理由は、実際には公的生涯前半と晩年という形できれいに二分できるわけではないからである。

される言葉——「肌の色でなく人格で判断される国」——は、この文脈において発せられたものであった。

公的生涯前半のキングの取り組みは、このように南部という限定された地域を中心に法的平等を追求するものであったため、既存の体制内で改革が可能であり、北部白人リベラルと連邦政府の協力を取りつけることができた。事実、多くの困難があったとはいえ、事態はそのように進行した。1964年公民権法と65年投票権法の成立により、南部の法的人種隔離制度の土台は崩れ、キングは夢の実現に一步近づいたと実感することができた。

ところが、1965年夏以降、キングはそれが幻想に過ぎなかったと痛感する。北部や西部の都市部黒人ゲッターと南部農村部の黒人の絶望的な貧困状況、それがアメリカ資本主義体制と人種差別との結びつきから生じていること、白人も含め4000万人もの貧困者がいるという現実、ベトナム戦争の戦費増大からくる連邦政府の貧困撲滅対策資金の縮小、さらに米軍の北爆によるベトナムの無辜なる子らの死という諸現実を目の当たりにする過程で、キングはアメリカが人種差別と貧困と軍国主義という「三つ組の悪」に蝕まれており、アメリカの社会・経済構造と価値観が物志向から人間志向へと根本的に変わらない限り、夢の実現は不可能という痛ましい認識に到達するのだった (King, 1967 a, pp.1-22, 133, 164-165)。

その結果、晩年キングの生は徹底的に貧者（特に黒人貧困層）に同一化し、貧者のために語り行動する生となった。彼は、個人の主流社会参入に満足し黒人貧困層に無関心な黒人中産階級をも批判の対象としたのである。そして、キングは、連邦政府を敵に回し、主要メディアから酷評され、多数の黒人指導者からも戦術的誤りと批判されることを覚悟の上で、1967年4月には正式にベトナム反戦を表明するに至った。暗殺により志半ばとなった1968年夏の「貧者の行進」は、経済的正義すなわち富の再分配による貧困の根絶を焦点に据えるものであった。それは、貧者を首都ワシントンに集め可視化さ

せ、大衆的非暴力直接行動で首都機能を麻痺させてでも、連邦政府に対し仕事と一定の収入を全ての人に保障するよう迫る計画であった。こうして、晩年キングの夢は、「三つ組みの悪」の根絶、言いかえれば「結果の平等」へと再定義されたのであった。

以上のように、キングの夢の深さと幅を実践的側面との関連で捉えた場合、それは公的生涯前半から晩年にかけて南部という枠を越え出てアメリカ全体へ、黒人という枠を越え出てすべての貧者へ、アメリカという枠を越え出て人類全体の平和的共存へと広がりを見せるに至ったことがみてとれるのである。

キングの夢のこのような深まりに照らせば、オバマ大統領誕生をキングの夢の成就に単純に結びつけられないことは明白である。確かに、公民権運動以降、法的平等とアファーマティブ・アクションの恩恵を受けることができた一部の黒人は豊かになり、黒人中産階級の数が増え、個人の主流社会参入は進んだ。年収 5 万ドル以上の収入を持つ黒人世帯は、1967 年の 17 組に 1 組から 2000 年までに 7 組に 1 組と増加し、今日では黒人の 3 割が郊外に居住するようになっている (Aguirre & Turner, 2004, pp.62-63; 松岡 2006, 17 頁)。1965 年投票権法成立以降、黒人の主流政治への参加も着実に進んでいる。国民の人種的偏見もかなりの減少傾向が認められる。³⁾ オバマの大統領誕生は、公民権運動の結果起きた諸変化の産物であり、その意味では、キングの夢の半分の成就といえるかもしれない。

しかし、晩年キングの夢は、依然として未完のままである。1980 年代にレーガン政権が打ち出した「小さな政府」路線は、経済のグローバル化、冷戦とその後はテロとの戦いを名目に、アメリカの資本主義体制と軍事依存体

3) たとえば、ピュー・リサーチ・センターによる 2007 年の世論調査では、回答者の 83%が「黒人と白人のデートは問題ない」とした。1987 年は 48%だった (2007, p.39)。

質に対する根本的な吟味の無いまま、共和党ブッシュ（1世）政権、中道派の民主党クリントン政権、そして共和党ブッシュ（2世）政権へと受け継がれてきた。その結果、2008年度に貧困ライン未満で暮らす人は、総人口3億人の13.2%に相当する3980万人おり（U.S. Census Bureau, 2009, p.13）、貧困は60年代と同様深刻な問題であり続けている。

白人と黒人との格差も60年代と変わらない。1960年から2000年にかけて、黒人の貧困率は白人の3倍、黒人の失業率は白人の2倍、大学レベルの教育を受けた黒人の割合は白人の半分で固定化している。16歳から19歳の黒人男性の失業率は、2006年において30%を超える。黒人世帯の中央所得値も白人の0.54（1950年）から0.68（2000年）と劇的変化はない。黒人の居住に関する隔離指数は56%（1960年）から59%（2001年）でむしろ悪化が認められる（Aguirre & Turner, 2004, pp.62-67; National Urban League, 2007, p.211）。ヘイトクライムの対象は依然黒人が多く、FBIによる2008年度報告では7783件中2877件にのぼる（FBI, 2008）。今日、黒人が40%を占める監獄者数における人種的不均衡は、1980年代以降「麻薬との戦争」を掲げ、都市中心部の黒人（有色人）貧困地区を集中的に取り締まるレイシャル・プロファイリングと無関係ではない（National Urban League, 2007; デイヴィス2008）。

したがって、「三つ組の悪」の根絶という晩年キングの夢は未完のままであり（Garrow, 2009）、むしろそれはオバマ政権が取り組むべき課題として残されているのである。

2. 「牧師」、「預言者」としてのキング

オバマ大統領は、経済と教育の再生、国民皆保険、国際協調主義を政策に掲げており、前ブッシュ大統領に比べれば、晩年キングの夢と共鳴する部分

がある。だが、それをもってオバマをキングに重ねるのは危険である。以下、残る各節は、社会的役割の認識と政治的立場において両者が異なることを、複数の視点から考察する。本節はキングを扱う。

まず、社会的役割に対するキングの認識において重要な点として、前節で既に触れたが、キングが徹底して貧者に同一化し、貧者のために語り行動したことがあげられる。そして、キングをそのように駆り立てた要因は、彼が自己の天職を「牧師」とみなし、「最も小さい者」(新約聖書マタイ 25 章 40 節)のために語るよう召し出されていると信じていたからに他ならない。晩年キングには政界進出の誘いもあったが、彼はそれを断り最後まで自己を政治の外に置いた。その理由もまた、キングが「牧師」は常に国家の良心、国家の監視者でなければならないと認識していたからである。(1958, p.36; 1963, p.62; 1967 b, p.146)。

しかし、このことは、キングの言動が「政治的」でなかったということの意味しない。むしろ逆であり、この点はキングが社会的福音 (Social Gospel) の唱道者であったことと関係していた。社会的福音は、キリスト教の福音を魂と社会の両方の救済に関わると解釈し、教会は社会変革の中心となるために、常に神の意志と現状との溝を喚起する預言者的役割を負うとする立場をとる (Smith & Zepp, 1974, pp.21-36)。したがって、キングは自己の社会的役割を「預言者」と認識していたのである。そして、この場合、キングを黒人教会の預言者的伝統の文脈に位置づけて理解することが重要となる。

黒人教会には預言者的伝統が息づいてきた。その理由は、黒人キリスト教信仰が、南部奴隷制、南部法的人種隔離制度、北部の実質的人種差別という歴史的状況の中で、黒人にとり正義と自由を求める抵抗の宗教として発展してきたことに関係する。

黒人神学者コーン (1986) の指摘に従えば、黒人の関心は神が社会的被抑圧者の解放に関与している聖書の箇所集中してきた。彼らの関心を特に引

いた箇所は、エジプトで奴隷とされていたイスラエル人を神が救い出す旧約聖書の「出エジプト」物語や、新約聖書のルカ 4 章 18－19 節「主はわたしを遣わされた。……しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために」であった。そこから、黒人キリスト教信仰の核心は次の二点に集約されることになった。(1) 人間は皆神の前に平等であり、いかなるキリスト者も奴隷制や人種差別を容認することはできない。(2) 神は社会的被抑圧者の解放のために働かれ、解放は遅かれ早かれ実現される。この場合、「早かれ」は地上的解放を、「遅かれ」は終末論的解放を指した。

以上の文脈において黒人教会の中で発展していったのが、ハワード・ピットニー (2005) が「アフリカン・アメリカン・ジェレマイアッド (African American Jeremiad)」と呼ぶ説教形式である。旧約聖書の「エレミア書」に登場する預言者エレミアは、紀元前 6、7 世紀頃、ユダ王国存亡の危機にあって神を忘れ墮落する民の様子を嘆き、彼らに悔い改めを説くが、しばしばそのために迫害を受ける。その結果、エレミアの預言はバビロン捕囚という形で現実となる。「アフリカン・アメリカン・ジェレマイアッド」は、この「エレミアの嘆き」をモチーフとする黒人説教形式を指す。これは、バーコヴィッチが「アメリカン・ジェレマイアッド」と呼んだ、17 世紀アメリカのピューリタンが好んだ説教形式の黒人版とすることができる。バーコヴィッチは、「アメリカン・ジェレマイアッド」は三要素から成るとした。すなわち、(1) 約束 (promise)、(2) 墮落 (declension)、(3) 預言 (prophecy) である。そして、この説教形式の特徴は、神の意志(約束)と現実(墮落)との落差を嘆き、痛烈に非難し、神の裁きを警告(預言)しつつも、最終的にはアメリカを「約束の地」とみなす楽観主義にあるとした (1978, pp.7-8)。

これらの構成要素は、「アフリカン・アメリカン・ジェレマイアッド」にも共通する。だが、アメリカの奴隷制と人種差別の糾弾に主眼が置かれる点で、その内容は極めて「政治的」である。すなわち、アメリカ建国理念(約

束)と奴隷制や人種差別の現実(墮落)との矛盾を嘆き、痛烈に非難し、矛盾を正さなければアメリカは神の裁きを受けると警告(預言)しつつ、アメリカが「約束の地」となり得るという希望を肯定する。したがって、アメリカに対する嘆きと痛烈な非難は「憎悪」ではなく、アメリカを正すための建設的な「怒り」であり、この説教形式の基底に流れる希望の肯定は、黒人キリスト教信仰における終末論的解放への不屈の信仰に裏付けられたものと解される必要がある。

たとえば、19 世紀アメリカにおいて、奴隷反乱をも肯定したデイビッド・ウォーカー (1785-1830) は、奴隷制を糾弾する書『ウォーカーの訴え』(1829 年)の中で、「私はあなたがたアメリカ人に言う。すぐに行動を変えない限り、あなたとあなたの国はおしまいだ」、「おお、アメリカ人よ、アメリカ人よ、私は主の御名において警告する。悔い改めて、改革せよ、さもなければ滅亡するだろう」と訴えた(1829, p.197)。また、19 世紀の黒人解放運動指導者フレデリック・ダグラス(1818-95)は、「奴隷所有の宗教とイエスのキリスト教」(1845 年)の中で、白人奴隷主が説くキリスト教は「偽善的キリスト教」であり、「私はこの国の宗教をキリスト教と呼べる理由を見出せない」と述べ、アメリカは「それゆえ、より大きな神の罰(damnation)を受けることになるだろう」と警告した(1845, pp.106-108)。しかし、両者はともに、アメリカの再生の可能性を信じていたという点で共通していた。

南北戦争と奴隷解放後も北部と南部で人種差別に直面してきた黒人にとり、アメリカは依然として旧約聖書でいう「エジプト」であった。それゆえ、アメリカが悔い改めない限り神の裁きを受けて滅びると警告する黒人教会の預言者的伝統は、1950、60 年代公民権運動にも受け継がれたのである。キングの場合、それは晩年において最も顕著かつラディカルに出た。キングは「然り、私は引き延ばされた夢、爆破された希望の犠牲者である」と嘆き、ベトナム反戦においては「われわれが生きているこの国が、最大の犯罪容疑

者であることは、悲しいことだ」とアメリカを痛烈に非難した (1968 b, p.264)。さらに、1968 年 3 月、テネシー州メンフィスに黒人清掃員ストライキ支援のため駆けつけたキングは、「私がここにやってきたのも、もしアメリカがその富を用いないなら、アメリカも地獄に行く (America too is going to hell) ということをいうためである」と警告したのである (Carson, 1998, p.354)。しかし、キングは「われわれは新しいメンフィスを作ることができる」とも語り、アメリカの再生の希望を肯定する。したがって、キングの説教は「アフリカン・アメリカン・ジェレマイアッド」の伝統を踏襲するものであったといえることができるのである。

実に、キングが暗殺されたのは、この差別され貧困にあえぐメンフィスの黒人清掃員のストライキ支援中であった。ここに、「最も小さい者」のために語らなければならないとするキングの政治的立場が集約されているのである。

3. キング、ライト、オバマ

ここで、黒人教会における預言者的伝統と関連し、オバマが精神上的「師」と位置づけてきた黒人牧師ジェレマイア・ライト・ジュニア (1941～) に触れておかなければならない。なぜなら、社会的役割の認識と政治的立場においてキングに近いのは、オバマではなくライトだからである。⁴⁾

オバマは、20 年間 (1988-2008) にわたりシカゴ・サウスサイド地区にあるライトのトリニティ教会の教会員であった。彼はここで洗礼を受け、結婚式も挙げた。2008 年大統領選挙中、ライトの説教の一部 “God Damn

4) このことは、キングとライトが全く同じというわけではない。たとえば、ウォーカーはライトの問題点としてアフロセントリズムを指摘する (Walker & Smithers, 2009, pp.45-50)。キングはそのような本質主義的立場をとらなかった。

America” がメディアと YouTube で執拗に流されると、オバマの大統領候補者としての資質を疑う批判が噴出し、その結果オバマはライトとの決別を宣言するに至った。しかし、ライトの生は、キングと同様「牧師」、「預言者」、貧者と同一化する生であり、彼の「過激」かつ「政治的」な発言は、むしろ前節で論じた黒人教会の預言者的伝統の文脈に位置づけて理解されるべきものであったといえる (Dyson, 2008 b; Mansfield, 2008, pp.138-139; Bell, 2009; Walker & Smithers, 2009, pp.13-44)。

トリニティ教会は、ライトの 36 年間 (1972-2008) に及ぶ献身的努力により、教会員数は赴任時の 100 人足らずから現在 6000 人を超えるまでに増えている。教会員の服装——スーツ、ジーンズ、アフリカ的なもの——の多様性は、ライトが多様な黒人層を受け入れ、かつ引きつけることに成功していることを物語る (Mansfield, 2008, pp.31-32)。ライトは、実際には次のような黒人牧師である。

第一に、ライトは黒人解放神学を思想的核としながら、ハワード大学とシカゴ大学神学校で修士号を、ユナイテッド神学校で博士号を取得し、ヘブライ語やギリシャ語、西欧神学に精通している。ライトは説教を平易にも難解にも語ることができ、多様な黒人層をトリニティ教会に引きつけたのは、実にライトの知性にあった (Mansfield, 2008, pp.36-39)。

第二に、ライトは黒人牧師の中でも極めてリベラルである。彼は、女性の中絶権、同性婚を擁護し、学校での祈りに反対する立場をとる。また、ある白人男性との結婚を人種の裏切りと躊躇した教会員の黒人女性に、人種で人を決めないよう諭し、結婚式もとりもった。白人青年団を自分の教会の礼拝に招くこともあった。そして、教会員と毎年アフリカを訪問し、逆にアフリカから牧師を教会に招く活動も行ってきた (Mansfield, 2008, pp.45-47; Saslow, 2008)。

第三に、ライトは黒人教会の預言者的伝統を受け継いでいる。ライト

(2007) は、60 年代の黒人教会が社会正義の拠点だったのに対し、最近は個人の物質的豊かさを神の報酬とする「富の福音 (prosperity gospel)」を唱える黒人教会が増加していると批判し、黒人教会は徹底して貧者の問題に取り組むべきだと説く。以上の点に照らすと、2008 年大統領選挙中のメディアによる「ライト」の表象は、ライトの実像とは異なっていたということがわかる。

では、YouTube において題目も “God Damn America” とわざわざ変えて流された 2 分程のライトの説教の断片について検討してみよう。それは、説教本来の文脈から完全に切り離されたものである。元の説教は、2003 年 3 月のイラク戦争直後の 4 月 13 日に「神と政府を混同すること (Confusing God and the Government)」という題目で行われた。

この説教でライト (2003) は、戦争は一時的な平穏をもたらすかもしれないが、真の平和はもたらさないと述べる。そして、ブッシュのアメリカが神の名の下にイラクを攻撃することは、アルカイダの行動と同じであり、誤りであるとする。ライトはここで、アメリカが神の名のもとに奴隷制を正当化し、「明白な運命」を掲げ先住民排除を正当化してきた歴史に言及し、アメリカのこの体質は 2003 年現在も変化していないとする。われわれは、神は常に正しいが、政府は良い方向にも悪い方向にも変わることを知らなければならない。したがって、神と政府を混同してはならず、アメリカが神のごとく振る舞う限り、「神よ、アメリカに罰を」と警告するのである。

以上が YouTube で流れたライト発言の本来の文脈である。実に、先制攻撃ドクトリンを掲げイラク戦争に突入したブッシュ政権を批判することが、この説教の趣旨であった。さらに付言すれば、“damnation” とは、聖書では正義からの逸脱を神が罰する意味で使用される神聖な表現でもある (Hagerty, 2009)。たとえば、新約聖書 (欽定訳) のマタイ 23 章 13-15 節では、イエス自身が偽善の律法学者、パリサイ人に対し、「あなたがたは、人

一倍ひどい罰を受けます (“you shall receive the greater damnation”)」と発する。ライトは聖書を念頭に「神よ、アメリカに罰を」を使用しており、単に「くたばれ」といった口語的使用法ではない点にも注意する必要がある。

ライトの説教は、デイビッド・ウォーカー、フレデリック・ダグラス、キングと同様、黒人教会の預言者的伝統の文脈に位置づけられる「政治的」説教であり、黒人教会においては決してめずらしいものではない。それは「憎悪」ではなく、アメリカを正すための建設的な「怒り」なのである。むしろ、ライト発言に対する白人世論の不快感を伴う過剰反応は、白人主流社会が黒人教会の伝統と文化にいかに無関心であり続けているかを露呈するものであったと解釈できる。また、ライトの説教に「不適切」な表現が確かに認められる場合でも、彼の基底のメッセージは妥当性を持つ。それを無視することは、アメリカ主流社会が晩年キングのメッセージをも無視することを意味するのである。

4. 「政治家」、「治癒者」としてのオバマ

2008 年大統領選挙中、オバマは「ライト発言」を発端に、3 月 18 日、人種問題に対する自己の見解を演説「さらなる完全な連合体 (A More Perfect Union)」として国民に語ることとなった。苦渋の決断だったとはいえ、オバマによるライトとの決別宣言は、両者の立ち位置の違いを物語る出来事であった。それは、オバマとキングとの立ち位置の違いでもある。本節では、オバマの社会的役割の認識と政治的立場について考察を深める。

この演説において、オバマ (2008b) は人種問題が現在も未解決であり、黒人の怒りが本物であることを白人は理解する必要があるとする。しかし、同時に白人労働者層が抱える怒りと問題も理解する必要があるとし、人種に中立的 (race-neutral) な立場をとる。その上でオバマは、ライトの誤りは人

種問題の変化しない側面のみに焦点を当てることだとし、こう続ける。アメリカの偉大さは常に良い方向に変化できることであり、今回の選挙では二つの選択肢がある。一つはこのまま人種を政治の争点にして対立と分裂を生み出し続けるか、もう一つは皆で協力して今回の選挙は人種を政治の争点にしないと決め、教育、雇用、医療保険など全てのアメリカ人に共通し、利益となる喫緊の課題に取り組むかである。そして、オバマは後者を選択しようと呼びかける。

アメリカを常に良い方向に変化できる国と位置づけ、人種を越えたより大きな共通の課題を前に黒人と白人との和解を説いた点において、この演説はオバマが「治癒者 (healer)」⁵⁾ であり、人種に中立的な黒人「政治家」であることを国民に印象づけるものであった。それは、大統領候補者オバマにとって必須の位置取りであったといえる。だが、ここで確認すべきより重要なことは、オバマの人種に中立的な立場は、公民権運動以降展開する黒人の政治参加の必然的帰結として理解できるということであり、またそれが持つ意味合いである。

公民権運動の成果である 1965 年投票権法成立以降、黒人の政治参加は、当初、黒人コミュニティは黒人が管理することを主張する 60 年代末のブラック・パワー運動の影響を多分に受けつつ展開した。1970 年代の黒人政治家の主要ルートは、公民権活動家から政治家に転身するというものであった。したがって、黒人政治家の主眼は黒人コミュニティの改善という特殊利益に置かれる傾向があった。黒人は連邦や州レベルでは人口面で少数派だったが、市レベルでは黒人人口が集中している選挙区もあった。その結果、市長選レベルで黒人が当選し始めた。しかし、当初「黒さ」を強調して当選した黒人

5) オバマを特徴づける語として、他に「統一者 (uniter)」、「調停者 (reconciliator)」も考えられるが、本稿ではマンスフィールドの視点を参考に、オバマを「治癒者 (healer)」と特徴づける (Mansfield, 2008, pp.129-131)。

市長も、財政面での支援は州政府から取り付ける必要がある。したがって、黒人市長といえども、一旦当選すると、「黒人の論理」ではなく「政治の論理」によって、黒人の特殊利益の強調を抑え、人種に中立的な政策と多様な利益を調停できる手腕が求められていくのだった（松岡 2006、50 頁；Lawson, 2009, pp.126-127, 154, 162）。そして、この傾向は、州知事、連邦上院議員など選挙区が大きくなればなるほど、当選のためには必須条件とならざるを得なかった。

この点を端的に例証するのは、ジェシー・ジャクソンの二度にわたる民主党の大統領予備選挙への出馬である。ジャクソンは、黒人牧師、キングとブラック・パワー運動の影響を受けた公民権活動家である。彼は、1984 年の民主党の大統領予備選挙において、「小さな政府」の下で福祉削減と軍備増強を進めるレーガニズムの転換を唱え、「虹の連合（rainbow coalition）」を掲げて抑圧されたエスニック・マイノリティ諸集団の連帯を訴えた。しかし、黒人色の強さ、抗議型の政策設定、ジャクソンの個人的資質に関わる疑問などを背景に、ジャクソンは黒人票 59%、白人票は 5%しか獲得できず、カーター政権期副大統領だったモンデールに完敗した（Lawson, 2009, pp.223-235）。

ジャクソンは、1988 年の民主党の大統領予備選挙に再出馬する。この時、彼は黒人からの支持を一層固めると同時に、白人、ヒスパニック、アジア系の票にも配慮し、政治顧問には白人を起用した。ジャクソンの強調点には、アフーマティブ・アクション支持、完全雇用対策もあったが、白人主流社会にも受け入れやすい内容——家族の重要性、上昇志向、ドラッグの危険性など——が加えられた。言いかえれば、ジャクソンは「黒さ」の強調を抑え、黒人も人種を越えた政策を提示できるとする戦略を採用したのである。その結果、ジャクソンは善戦し、黒人の多い南部諸州と白人が多い数州でも勝利し、1984 年の 3 倍の票を獲得し、2 位で予備選挙を終えた（Lawson, 2009, pp.245-257）。

ジャクソンのこの二度にわたる出馬が示すことは、黒人が主流政治に参入するためには、「黒さ」の強調、抗議型の政治では限界があり、人種に中立的な立場、調停型の政治を目指す必要があるということである。そして、1980年代にはそのような立場を最初からとる黒人政治家が登場し始めた。松岡は、その典型例として1989年にヴァージニア州知事に当選したダグラス・ワイルダーを挙げ、彼に見られる黒人政治家の特徴を、(1)人種を強調しない、(2)公民権活動家からの転身でないプロ政治家としての経歴、(3)高度な実務能力、(4)白人主流社会と同一の価値観と理念、(5)「小さな政府」への同調傾向の五点にまとめている(2006、45-48頁)。言い換えれば、ワイルダー型の新たな黒人政治家は、白人主流社会(=白人中産階級)と同じ価値観を共有しているがゆえに白人票を獲得でき、その結果主流政治へ参入できるということになる。これは逆にいえば、黒人政治家の数的増加と黒人貧困層が抱える利益の政治への反映とは、単純に結びつかないことを意味する。

アイフィル(2009)は、21世紀に入り、最初から人種を越えた政策を基礎に据える新世代の黒人政治家が全米各地で当選する「小さな突破(break-through)」が顕著になったと指摘し、オバマの大統領当選はその延長線上に起こった「大きな突破」であると論じた。

したがって、オバマのような黒人政治家は、公民権運動以降展開する黒人の政治参加の必然的帰結として理解できるのである。だが、それは同時に、次の問題を提起する。すなわち、オバマが大統領として主流政治中枢に組み込まれている以上、彼が掲げる政策は結果的に中産階級志向となり、貧困層を放置するのではないかという危惧である(Lawson, 2009, p.344)。事実、その兆候はすでに認めることができる。たとえば、2010年1月27日のオバマ大統領の一般教書演説(2010b)は、雇用創出を強調する演説となったが、その中で「中産階級家庭(middle-class families)」という語は5回登場する

が、「労働者階級 (working-class)」や「貧者 (poor)」という語は 1 度も登場しない。医療保険制度の改革が必要な理由も、オバマは、「中産階級家庭の負担軽減のため」と述べている。

ここまでの考察に照らすと、大統領としてオバマが取る中産階級志向の政治的立場と、貧困層のために語り行動するキングのそれとの間には、大きな隔たりがあるということが見えてくるのである。

5. オバマによる「キング」の政治的使用

オバマが政治家である以上、彼が言及する「キング」には政治性が働く。言い換えれば、オバマは大統領また「治癒者」として、必要な範囲において「キング」を使用するのである。

この問題を考えるためには、まず、1983 年のキング連邦祝日制定以降、国家が記憶するキングの中身を押さえておく必要がある。国家が記憶するキングを「公的記憶 (public memory) としてのキング」と呼ぶとすると、それは晩年キングではなく、公的生涯前半のキングである (大類、2002; 黒崎、2009)。その理由は、公的記憶が持つ特徴に由来する。ここでは、二点のみ指摘する。

第一は、公的記憶は国民全体が共有可能な記憶となるために、政治性が強い部分は後退させられ、結果として脱政治化されたものとなることである。南部法的人種隔離制度の不公正さ、64 年公民権法と 65 年投票権法の意義を否定できる者はまずいない。したがって、「法的平等を追求したキング」という記憶は、国民全体で共有可能である。また、法的平等は両立法で達成された過去の既成事実であり、今日の政治性をもたない (= 脱政治化)。他方、晩年キングの未完の夢は、国民的合意の難しい、特に主流社会の反発を確実に招く課題で構成されている。言い換えれば、晩年キングが持つ今日の政治

性は極めて強力であり、それゆえ公的記憶は晩年キングを忘却しようとするのである。

第二は、公的記憶の脱政治化は、それ自体が権力者側の覇権維持という極めて「政治的」な意図により起こることである。公的記憶は、法的平等を追求したキングと、64年と65年の両立法で南部人種隔離制度が崩壊した部分に焦点をあてる。それにより、キング連邦祝日は、現在のアメリカが60年代の課題を克服し、より進歩した国家であることを確認する行事となる。他方、晩年キングに焦点を当てた場合、キング連邦祝日は、現在のアメリカが本質的な部分において60年代の課題を克服していないことを確認する行事となる。それは、キング連邦祝日を国家の怠慢を批判する行事に変容させる危険性すらある。それゆえ、公的記憶は晩年キングを忘却しようとするのである。

公的記憶が持つ以上の特徴を理解するならば、オバマが大統領また「治癒者」として言及する「キング」は、公的生涯前半のキングに集中するであろうという予測が立つ。以下、オバマの演説や発言のうちキングに言及しているものを拾い出し検証する。

まず、大統領選挙中の2008年1月、オバマはかつてキングが牧師をしていたアトランタのエベネザー・バプテスト教会で演説を行った(2008a)。同演説の趣旨は、アメリカを変えるための「団結(unity)」の強調にあった。オバマが引用したのは、モンゴメリー・バスボイコット運動において「結束こそが今最も必要なこと」と語り、「夢」演説で「共に祈り、共に働き、共に行進し」と語った公的生涯前半のキングであった。この点は、2008年8月28日の民主党全国党大会での大統領候補指名受諾演説にも当てはまった。この時もオバマはキングの「夢」演説に言及し、「団結により、我々の夢はひとつになり得る」と述べたのである(2008d)。この言葉は、オバマが「分断されたアメリカ」を修復できる「治癒者」として自己を提示するには極め

て有効であったといえる。

次に、2008 年 4 月 4 日、キング暗殺 40 周年に際しオバマが行った演説は、晩年キングに言及している点で特筆に値する。オバマは「経済的正義を求める闘いは未だ成就せざるキングの遺産の一部」と語ったのである (2008c)。しかし、この時オバマが晩年キングに言及できた理由は、当時のオバマがまだ大統領候補者の一人であり、政治の中枢に位置するブッシュ政権を批判する挑戦者の立場にあったという点において、キングに近い立ち位置にいたということと無関係ではない。事実、オバマ政権発足以降、晩年キングへの言及は影をひそめる。

2009 年 12 月 10 日に行われたオバマの「ノーベル平和賞受諾演説」は、「牧師」キングと「政治家」オバマの違いを最もよく浮き彫りにした。オバマ (2009) は、この演説で「正しい戦争」というものがあると主張し、大統領として「彼ら (ガンジーとキング) の手本だけに導かれるわけにはいかない」と述べた。イラクとアフガニスタンという二つの「戦争」を遂行中のオバマにとって、晩年キングの記憶は不都合であり、後退させられなければならないのであった。

2010 年 1 月 17 日、キング連邦祝日を前に、オバマはヴァーモント・アベニュー・バプテスト教会で演説を行った。この黒人教会では、キングもかつて説教しており、一つは 1956 年 12 月 6 日の「新時代の挑戦 (“The Challenge of a New Age”）」、もう一つは 1968 年 2 月 7 日の「方向感覚を求めて (“In Search for a Sense of Direction”）」であった。

この演説でオバマ (2010a) が言及したキングの説教は、前者「新時代の挑戦」⁶⁾ であった。オバマは、モンゴメリー・バスボイコット運動に勝利し

6) このキングの説教のオリジナルは未入手であるが、同様の内容の説教 (1957) をキングは別の機会にも行っており、内容についてはそれを参照した。

た直後のキングに触れ、この時点でキングと公民権活動家にとり、その先の公民権運動の展開——64年と65年の両立法という勝利——は未知で不確かだったと述べる。しかし、未来への信念が当時の人々を前進させたとおバマは強調し、だからわれわれも、経済、医療保険、教育、エネルギーといった諸問題の解決に向け、同様の信念で前進しようと語りかけたのである。

キングの後者の説教「方向感覚を求めて」に言及することをオバマが選択しなかった理由は、晩年キングのこの説教(1968c)が「貧者の行進」計画中になされ、連邦政府に「悔い改め」を警告する預言者的内容だったからに他ならない。オバマ政権発足から1年が経過し、「変革」が思うように進まず国民の支持率も低下する中で、現政権の取り組みに対する国民の信頼を回復するためには、オバマにとり未来への信念の強調につなげるのできる「新時代の挑戦」こそが、言及するに相応しいキングの説教だったのである。

以上の検証からわかるように、オバマが大統領また「治癒者」という立場から言及する「キング」には、政治性が働いている。そこから生じる危惧は、オバマによるキングへの言及は、それがもっぱら公的生涯前半のキングに集中することにより、晩年キングの夢を呼び覚ますより忘却させ、むしろ「公的記憶としてのキング」をより固定化させる力として作用するのではないかということである。

おわりに

オバマは、二冊の著書『マイ・ドリーム』と『合衆国再生』の中で、次のような見解も提示している(2004, pp.133-135, 193-194, 274, 294; 2006, pp.232-233, 243, 245-246)。すなわち、アメリカにおいて人種の重要性は今日でも失われておらず、ポスト・レイシャル社会到来の声には警戒が必要である。見えにくい差別が存在し、黒人貧困層が抱える問題を自己責任論では

単純に説明できない。公民権運動のような下からの草の根運動こそが社会変化を生み出す。黒人教会には預言者的伝統が息づいている。

オバマのこうした見解は、彼がシカゴの黒人スラム地区でコミュニティ・オーガナイザーとして活動し、公民権専門の弁護士として働き、シカゴ大学で憲法を教える中で培われたものである。「個人」としてオバマが、アメリカの歴史、人種や貧困の問題に対し極めて多面的かつ鋭い洞察力を持っていることは疑う余地がない。そして、それが晩年キングの生に対する理解についてもあてはまるであろうことは想像に難くない。

しかし、本稿での議論から明らかなように、オバマの個人的見解とは別に、「政治家」、「治癒者」としてのオバマは「政治の論理」で動かざるを得ない。オバマの立ち位置は、政治の外に身を置き良心に基づき行動した「牧師」、「預言者」としてのキングとは全く異なるのである。特にオバマが大統領として主流政治中枢に組み込まれている以上、「政治の論理」に従い、結果的に彼の政策が中産階級志向となり、彼の言及する「キング」が公的生涯前半のキングに固定化される可能性は高い。言いかえれば、「三つ組の悪」の根絶という晩年キングの未完の夢は、未完の夢のまま放置される可能性がある。とすれば、アメリカを晩年キングの夢の成就へと向けていく力は、政治の外から来る必要がある。

2010 年 1 月 18 日のキング連邦祝日当日、キングが牧師だったエベネザー教会で記念式典が開かれた。オバマがヴァーモント教会で演説した翌日である。記念式典の基調演説でプリンストン大学教授コーネル・ウェストは、「貧困の議論はどこにいったのか」と語り、キングの遺産を生き続けさせるためには、オバマを守り敬いつつも、「彼を正していかなくはいけない」と述べた (Hains, 2010)。言いかえれば、キングが体現したような「預言者」の必要性は、大統領が誰であっても失われることはなく (Dyson, 2008a, p. 268)、オバマ大統領に対しても失われていないのである。

引用・参考文献

〈日本語文献〉

- 『朝日新聞』朝刊(2008年11月7日)「キング牧師の夢がいま」、1頁。
- 大類久恵(2002)「公的歴史としての『M・L・キング』—キング祝日制定過程および記念祝賀で描かれたキング像」『史境』第44号、74-93頁。
- オバマ、バラク(白倉三紀子・木内裕也 訳)(2007)『マイ・ドリーム：バラク・オバマ自伝』ダイヤモンド社。
- (棚橋志行 訳)(2007)『合衆国再生：大いなる希望を抱いて』ダイヤモンド社。
- カーソン、クレイボーン編(梶原寿 訳)(2001)『マーティン・ルーサー・キング自伝』日本基督教団出版局。
- カーソン、クレイボーン・ホロラン、ピーター編(梶原寿 訳)(2007)『真夜中に戸をたたく：キング牧師説教集』日本キリスト教団出版局。
- キング、マーティン・ルーサー、ジュニア(雪山慶正 訳)(1959)『自由への大いなる歩み』岩波新書。
- (蓮見博昭 訳)(1965)『汝の敵を愛せよ』新教出版社。
- (猿谷要 訳)(1968)『黒人の進む道』サイマル出版会。
- 黒崎真(2008)「宗教、人種、アイデンティティー—アフリカ系アメリカ人の想像力における『出エジプト』物語」『神田外語大学紀要』第20号、1-21頁。
- (2009)「米国におけるキング牧師連邦祝日制定と非暴力という遺産」『神田外語大学紀要』第21号、477-499頁。
- デイヴィス、アンジェラ(上杉忍 訳)(2008)『監獄ビジネス—グローバリズムと産獄複合体』岩波書店。
- 松岡泰(2006)『アメリカ政治とマイノリティー—公民権運動以降の黒人問題の変容—』ミネルヴァ書房。

〈外国語文献〉

- Aguirre, Adalberto, Jr. & Turner, Jonathan H. (2004). *American Ethnicity: The Dynamics and Consequences of Discrimination*. New York: McGraw-Hill.
- Bell, Bernard W. (2009, Autumn). President Barack Obama, the Rev. Dr. Jeremiah Wright, and the African American Jeremiadic Tradition. *Massachusetts Review*, Vol.50, Issue 3, pp. 332-343.
- Bercovitch, Sacvan. (1978). *The American Jeremiad*. Madison, WI: The University of Wisconsin Press.
- Carson, Clayborne. (Ed.) (1998). *The Autobiography of Martin Luther King, Jr.*

- New York: Warner Books.
- Carson, Clayborne., & Shepard, Kris. (Eds.) (2001) *A Call to Conscience: The Landmark Speeches of Dr. Martin Luther King, Jr.* New York: A Time Warner Company.
- CNN. (2009, January 19). Most blacks say MLK' vision fulfilled, poll finds. *CNN Politics.com*.
(<http://www.cnn.com/2009/POLITICS/01/19/king.poll/index.html> [2010, January 25])
- Cone, James H. (1986). *Speaking the Truth: Ecumenism, Liberation, and Black Theology*. Grand Rapids, MI: Eerdmans Publishing.
- Douglass, Frederick. (1845, April 28). Slaveholding Religion and the Christianity of Christ. In Sernett, Milton C. (Ed.) (1999). *African American Religious History: A Documentary Witness*. (以下、AARH と略記) (pp.102-111). Durham, NC: Duke University Press.
- Drennen, Kyle. (2008, August 28). CBS: Barack Obama=Martin Luther King. *NewsBusters.org*.
(<http://www.newsbusters.org/node/23710/print> [2009, November 23])
- Dyson, Michael Eric. (2008a). *April 4, 1968: Martin Luther King, Jr.'s Death and How It Changed America*. Philadelphia, PA: Basic Civitas Books.
- (2008b, April 4). The prophetic anger of MLK. *Los Angeles Times*.
(http://www.latimes.com/new/opinion/la-oe.dyson_4apr04,0,7405848,print.story [2009, February 15])
- FBI. (2008). Incidents, Offenses, Victims, and Known Offenders by Bias Motivation, 2008.
([http://www.fbi.gov/ucr/hc 2008/data/table_01.html](http://www.fbi.gov/ucr/hc%2008/data/table_01.html) [2010, January 31])
- Garrow, David J. (2009, January 19). An Unfinished Dream. *Newsweek*.
(<http://www.newsweek.com/id/180471/output/print> [2009, September 15])
- Gonzalez, Eddie. (2008, November 11). Obama fulfills Martin Luther King's dream. *Connection*.
(<http://www.crcconnection.com/media/storae/papers/572/news/2008/11/20/News/Obama.Fulfills.Martin.Luther.Kings.Dream-3555602.shtml> [2009, November, 23])
- Ifill, Gwen. (2009). *The Breakthrough: Politics and Race in the Age of Obama*. New York: Doubleday
- Hagerty, Barbara Bradley. (2009, February 15). A Closer Look at Black Liberation Theology. *NPR.org*.
(<http://www.npr.org/templates/story/story.php?storyID=88552254> [2009, February 15])
- Hains, Errin. (2010, January 18). Worshipers urged not to 'sanitize' King's legacy.

- The Washington Post*.
(http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2010/01/18/AR-2010011801973_pf.html [2010, January 19])
- Howard-Pitney, David. (2005 [1990]). *The African American Jeremiad: Appeals for Justice in America*. Philadelphia, PA: Temple University Press.
- King, Martin Luther, Jr. (1957, April) Facing the Challenge of a New Age. In Washington, James M. (Ed.) (1986). *A Testament of Hope: The Essential Writings and Speeches of Martin Luther King, Jr.* (以下、*ATOH* と略記) (pp.135-144). New York: HarperCollins.
- (1958). *Stride Toward Freedom: The Montgomery Story*. New York: Harper Collins.
- (1963). *Strength to Love*. New York: Harper & Row Publishers.
- (1967a). *Where Do We Go from Here: Chaos or Community?* New York: Harper & Row Publishers.
- (1967b, August 27). Why Jesus Called a Man a Fool. In Carson, Clayborne. (Ed.) (1998). *A Knock at Midnight*. (pp.141-164). New York: Warner Books.
- (1968a). *A Trumpet of Conscience*. New York: HarperSanFrancisco.
- (1968 b, February 4). The Drum Major Instinct. In *ATOH*. (pp.259-267).
- (1968c, February 7). In Search for a Sense of Direction. Martin Luther King, Jr., Papers, 1954-1968, King Center, Atlanta.
- (1968d, March 31). Remaining Awake through a Great Revolution. In *ATOH*. (pp.268-278).
- Lawson, Steven F. (2009 [1990]). *Running for Freedom: Civil Rights and Black Politics in America Since 1941*. Hoboken, NJ: Willey-Blackwell.
- Mansfield, Stephen. (2008). *The Faith of Barack Obama*. Nashville, TN: Thomas Nelson.
- National Urban League. (2007). *The State of Black America 2007: Portrait of Black Male*. Silver Spring, MD: Beckham Publications Group.
- Obama, Barack. (2004). *Dreams from My Father: A Story of Race and Inheritance*. New York: Three Rivers Press.
- (2006). *The Audacity of Hope: Thoughts on Reclaiming the American Dream*. New York: Three Rivers Press.
- (2008a, January 20). Address at Ebenezer Baptist Church. *American Rhetoric*.
(<http://www.americanrhetoric.com/speeches/barackobama/barackobamaebenezerbaptist.htm> [2010, February 23])

- (2008b, March 18). A More Perfect Union. *American Rhetoric*.
(<http://www.americanrhetoric.com/speeches/barackobamaperfectunion.htm>
[2010, February 23])
- (2008c, April 4). Remarks in Fort Wayne, Indiana: “Remembering Dr.
Martin Luther King, Jr.” *The American Presidency Project*.
(<http://www.presidency.ucsb.edu/ws/index.php?pid=76996> [2010, January 19])
- (2008d, August 28). Obama’s Acceptance Speech. *NPR.org*.
(<http://www.npr.org/templates/story/story.php?storyID=94087570> [2009, February
15])
- (2009, December 10). Address Accepting the Nobel Peace Prize in Oslo,
Norway. *The American Presidency Project*.
(<http://www.presidency.ucsb.edu/ws/index.php?pid=86978> [2010, February
25])
- (2010a, January 17). Remarks at a Church Service Honoring Martin
Luther King, Jr. *The American Presidency Project*.
(<http://www.presidency.ucsb.edu/ws/index.php?pid=87399> [2010, January 19])
- (2010b, January 27). Address before a Joint Session of the Congress on
the State of the Union. *The American Presidency Project*.
(<http://www.presidency.ucsb.edu/ws/index.php?pid=87433> [2010, February 25])
- Pew Research Center. (2007, March 22). Trends in Political Values and Core
Attitudes: 1987-2007.
(<http://people-press.org/trports/pdf/312/pdf> [2008, October 1])
- Saslow, Eli. (2008, March 18). Congregation Defends Obama’s Ex-Pastor. *The
Washington Post*.
([http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2008/03/17/AR200803
1702796_pf.html](http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2008/03/17/AR2008031702796_pf.html) [2009, February 15])
- Smith, Kenneth L. & Zepp, Ira G., Jr. (1974). *Search for the Beloved Community:
The Thinking of Martin Luther King, Jr.* Valley Forge, PA: Judson Press.
- U.S. Census Bureau. (2009, September). Income, Poverty, and Health Insurance
Coverage in the United States: 2008.
(<http://www.census.gov/prod/2009/pubs/p60-236.pdf> [2010, January 31])
- Walker, Clarence E. & Smithers, Gregory D. (2009). *The Preacher and the
Politician: Jeremiah Wright, Barack Obama, and Race in America*. University of
Virginia Press.
- Walker, David. (1829, September 28). Our Wretchedness in Consequence of the
Preachers of Religion. In *AARH*. (pp.193-201).
- Winnett, Robert. (2008, November 5). Barack Obama victory hailed as the realiza-
tion of Martin Luther King’s dream. *Telegraph.co.uk*.

(<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/northamerica/usa/barackobama/3385972/Barack-Obama-victory-hailed-as-the-realisation-of-Martin-Luther-Kin's-dream.html> [2009, November 23])

Wright, Jeremiah. (2003, April 13). Confusing God and Government. *The Black Past org.*

(<http://www.blackpast.org/?q=2008-rev-jeremiah-wright-confusing-god-and-government> [2010, February 11])

——— (2007, August 17). Interview: Rev. Jeremiah Wright. *Religion & Ethics News Weekly.*

(<http://www.pbs.org/wnet/religionandethics/wwk1051/interview4.html> [2009, February 15])